

The Issei Voices

Sep.10.2016 の Mainichi Weekly に、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼにある日本町について書いたリサ・ヴォート (Lisa Vogt) さんの文が出ていた。

日本からの合法的な移民は、1884 (明治17年) に始まった。

一世の農民は優秀だったそうだ。サンノゼの人口の2%しか占めていないのに、農産物の50%以上の生産額をあげていたらしい。

一世以外の農民が1 acre (1エーカー=4046.8m²) あたりの生産が\$37だったのに対し、一世たちは、\$280という驚異的な生産を生み出したそうだ。

いま、サンノゼの町には、「Issei Voices」が書かれた石碑がいたるところにある。当時、一世たちが話していたことや子供たちに話していた言葉である。

g a m a n

s h i k a t a g a n a i

i s s h o k e n m e i n i s h i n a s a i

k o d o m o n o t a m e

m o t t a i n a i k o t o s h i n a i n o

などである。

一世たちは、このような言葉を日常的に話しながら、生き抜いたのであろう。

今日、一世の子孫、日系アメリカ人は、高水準の学歴を受け、国の平均をはるかに超えた収入を得る層に溶け込んでいるようである。

全てがこのようにうまくいっているとは限らないだろうが、元々勤勉であったところに、Issei Voicesを口にしながら助け合い、子育てを行っていたのだろう。

このような何気ない言葉が、心にしみこみ、親から子へ子から孫へと伝わり、自然と正しい方向へ導いていったのであろう。

親をはじめ大人から言われた言葉が、今でも心に残っていることありませんか。意外と現在の自分をつくりあげているのかもしれない。

私の場合、母親から「人から後ろ指をさされるようなことをするな」ということを言われたのを思い出します。その言葉がなんとなく脳裏に浮かびます。

人って、何かこのようなちょっとしたことがずっと記憶され、形づくられることがあるように感じます。学校も校訓や校是、目標など、何となく子供たちへ伝えるメッセージを持っています。これらも、一人ひとりの成長に関わっていることでしょう。

日頃のちょっとした言葉がけが大切なのだ、ということを感じたひとときでした。